

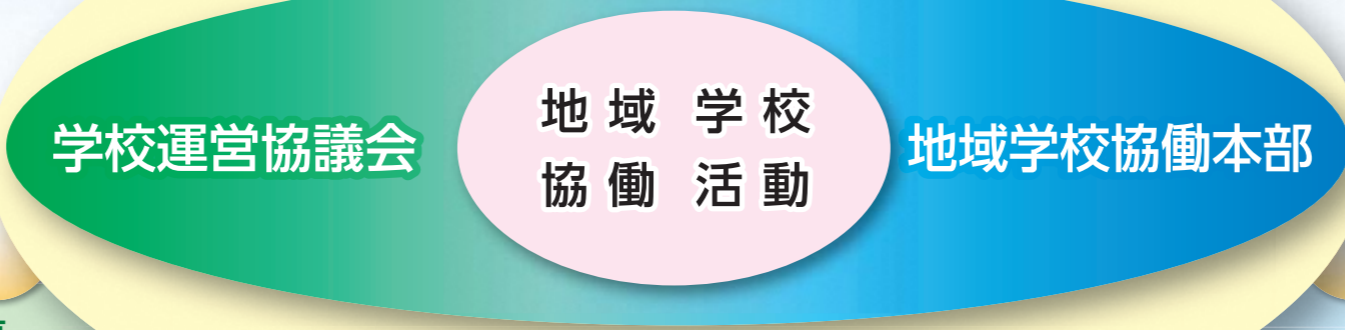
地域とともに
子どもを育む学校づくり
～学校運営協議会と地域学校協働本部が一体となって
横浜の子どもを育てるために～



学校運営協議会と地域学校協働本部が 一体となって横浜の子どもを育てます

学校運営協議会は、地域・保護者の皆さんと学校が目標を共有し、一定の権限と責任を持って学校運営に参画する仕組みです。この仕組みを持つ学校を「**コミュニティ・スクール**」と言います。

地域学校協働本部は、既存の地域と学校の連携体制をもとにして、**地域学校協働活動推進員(学校・地域コーディネーター)**が中心となって緩やかなネットワークを形成し、より多くの幅広い地域の皆さんや団体等の参画によって地域学校協働活動を推進する体制です。



- ・情報共有
- ・熟議
- ・課題
- ・目標共有



学校と地域が連携・協働することで地域の様々な宝物(人・もの・環境)を子どもたちの学び、育ちに活かすことができます

学校と地域の架け橋
地域学校協働活動推進員(学校・地域コーディネーター)



学校運営協議会は学校にどのように関わっていくのですか？
学校運営協議会は学校と対等の立場で、共有した目標に向かって熟議を行います。学校から様々な情報の提供を受け、学校長が示すビジョンや方針に意見を反映させます。

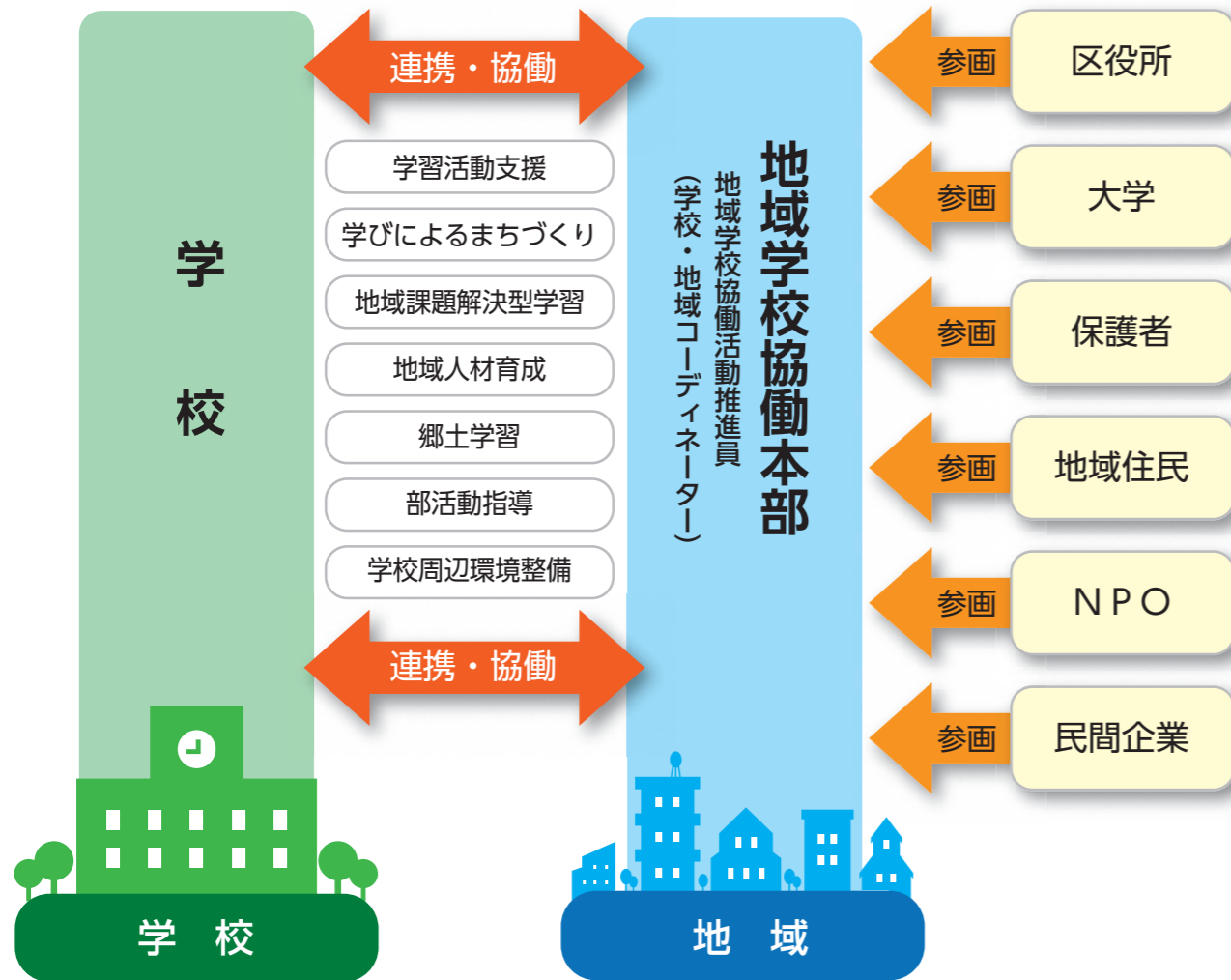
地域学校協働活動推進員(学校・地域コーディネーター)とは？
学校と地域の架け橋となる方で、地域や学校の状況に応じて、地域と学校が協働できる仕組みづくりを進める役割を担います。具体的には、学校ボランティアの募集・調整や地域学校協働活動の企画・運営などを行います。

なぜ？ 地域と学校が連携・協働することが大切なの？

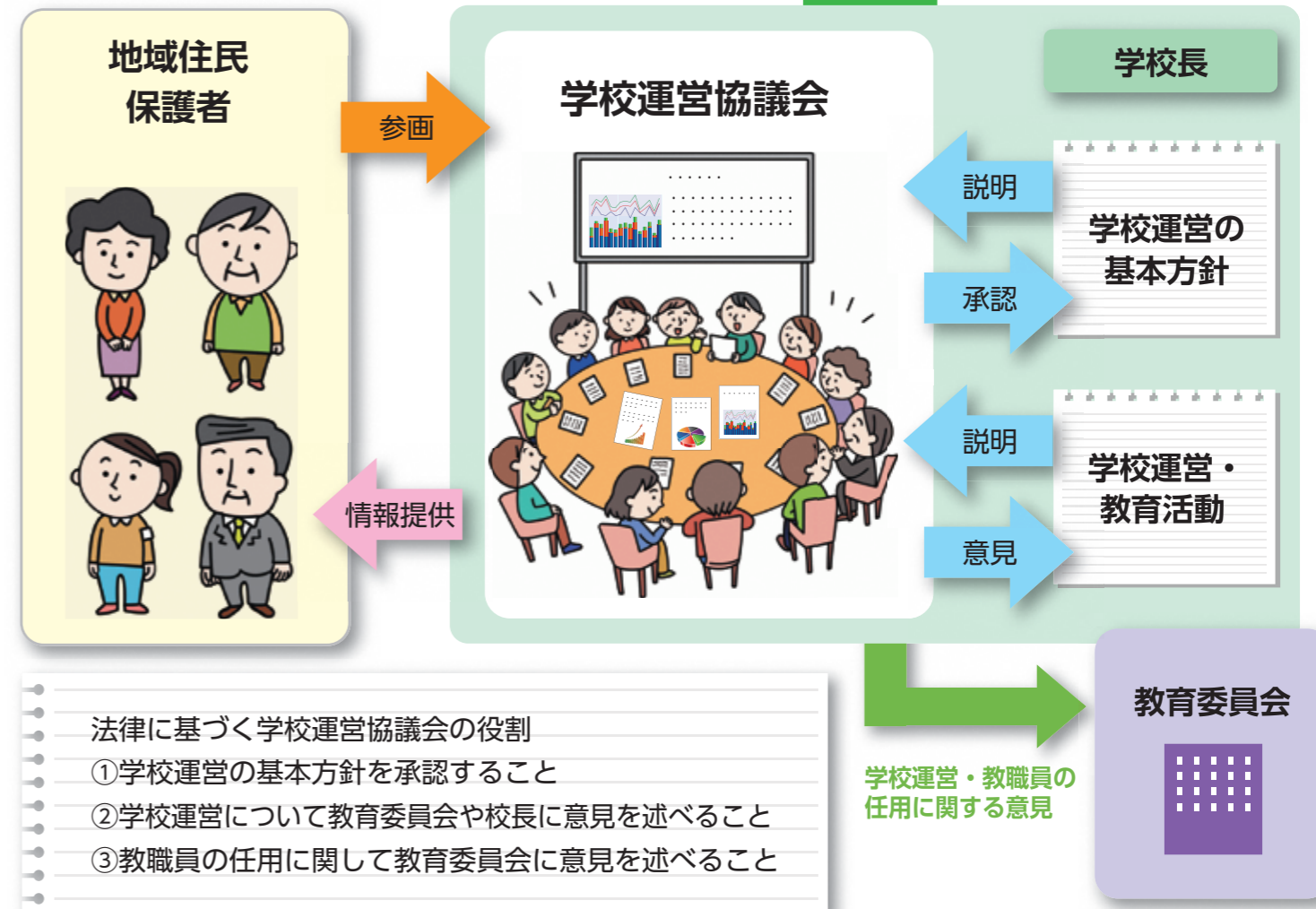
社会や学校を取り巻く環境が複雑、多様化している中で、子どもに関する課題を解決して、横浜の子ども豊かな成長を実現するために、地域と学校が連携・協働していく必要があります。連携・協働のためには、地域と学校が目標を共有して、互いに積極的な取組を進めることがポイントです。

- 地域・保護者の皆さんが学校教育に参画することで子どもたちへの教育活動が充実します。
- 地域・保護者の皆さんと学校が顔の見える関係となり、学校の理解者、協力者が増えます。
- 地域の皆さんの交流が活発になり、皆さんのつながりがより広く深くなります。

地域学校協働本部のしくみ



学校運営協議会のしくみ



地域学校協働本部に求められる役割は何ですか？

- 地域学校協働本部では、以下の3要素を意識し、地域の実態に応じて活動を推進します。
- (1) コーディネート機能：より幅広い地域の皆さんや団体等と学校との連絡調整を行い、緩やかなネットワークを形成します。
 - (2) 多様な活動：地域の皆さん等に加え、NPO、民間企業などにも学校の教育活動に参画してもらいます。
 - (3) 継続的な活動：継続的に地域の皆さんが参画し、安定して活動を進めていきます。

地域学校協働本部では、やらなければいけないことはありますか？

3要素を意識して活動を進めますが、やらなければならない具体的な活動はありません。地域や学校の実態に応じて、できる活動を進めてください。また、既存の体制をもとに組織を形成するので、組織の形態も地域によって様々となります。

学校運営協議会では、どのような話し合いをするのですか？

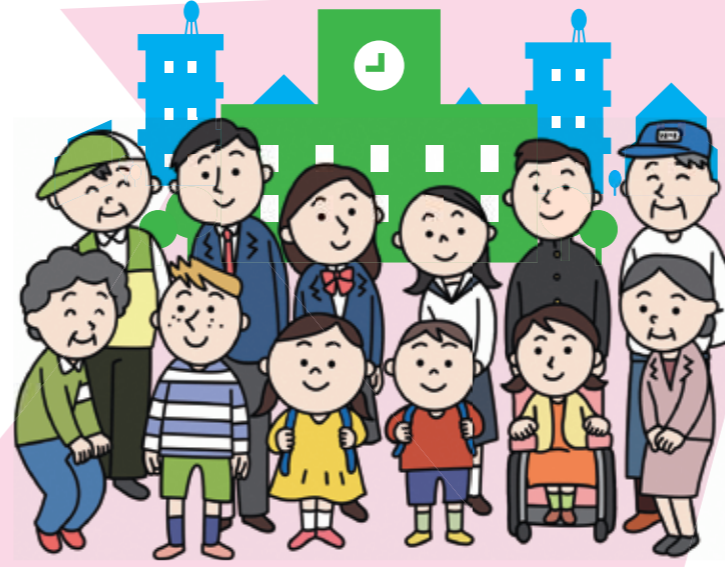
学校運営やそれに必要な支援に関する教育活動などについて熟議を行います。そのために、学校運営協議会の委員には、横浜教育ビジョン 2030 や学校教育目標等を理解していただきます。例えば、学校が“主体的に取り組む子どもを育てる”ことに力を注ぐのであれば、そのために見守り活動や地域清掃活動等の中では何が出来るかを、一人ひとりが当事者意識をもち、目指す方向を明確にして熟議をしていきます。

これまでの「まちとともに歩む学校づくり懇話会（まち懇）」とは何が違いますか？

「まち懇」は、横浜市独自の制度で地域の方々に、学校の状況をお知らせし、相互に意見交換を行います。学校運営協議会は、法律に基づく組織で、学校と地域や保護者の皆さんが対等な立場で協議し、一定の責任と権限をもって学校運営に参画します。学校運営の根幹となる「教育課程」や「学力向上」、「いじめや不登校などの生徒指導上の課題」、「部活動」などについて、目標を共有して、熟議をし、意見を述べるすることができます。

地域学校協働活動とは

保護者や地域の皆さん、民間企業、団体等の幅広い方々の参画を得て、地域全体で子どもたちの学びや成長を支えるとともに、「学校を核とした地域づくり」を目指して、地域と学校が相互にパートナーとして連携・協働して行う様々な活動です。



持続可能な活動へ発展

- ・学校運営協議会と地域学校協働本部が一体となる
- ・地域と学校の目標が共有され、積極的な取組が展開される

・様々なボランティアや支援の組織が、それぞれ活動をしている

- ・学校運営協議会の設置
- ・地域学校協働本部の設置
- ・地域との緩やかなネットワークを形成



地域学校協働活動ってこれまでの活動とは何が違いますか？

活動内容の違いではなく、「支援」から「連携・協働」へという視点の違いです。今までは、地域が学校や子どもたちを応援・支援するという関係でしたが、「地域の子どもたちを、地域と学校が一体となって育てていく」という「連携・協働」の視点で、地域と学校がパートナーシップに基づき、双方向の関係で活動を進めていきます。視点の違いですので、個々の活動が今までと同じになることも、当然あります。

児童・生徒

専門的な知識や技能を持った地域住民等とのふれあいにより

- ・豊かな学びや豊かな心の育成
- ・コミュニケーション力の向上
- ・地域への愛着、地域の担い手としての自覚の醸成

学校

地域住民等の理解と協力を得られることで

- ・地域資源を生かした授業づくり
- ・子どもと向き合う時間の増加
- ・地域との継続的な信頼関係の構築

地域

地域住民が自らの経験や知識を子どもの教育等に生かすことで

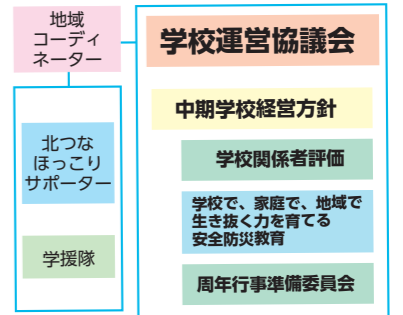
- ・地域や子どもたちへの貢献による満足感や充実感
- ・地域の新たなつながりの創出

事例紹介

<小学校事例 北綱島小学校>

「きたつな」らしい学校・家庭・地域連携に基づく安全防災教育

学校運営協議会を通して、地域、家庭との連携を強化し、安全防災教育や地域の教育力を活用した学習活動を充実させ、地域とともにある学校づくりを推進しています。学校は、学校運営協議会で地域が協力できることを助言してもらい、学校・地域コーディネーターを通して学校支援ボランティアである「北つなほっこりサポーター」や学援隊などの地域人材に繋がっています。



<中学校事例 すずき野中学校>

地域学校協働本部（すずき野中学校支援会）による協働活動

それまで個々に行われてきたボランティアを一体化し、組織的に地域力を生かすべく「すずき野中学校支援会」を設置し、5つのサポート部門に活動内容を整理しました。さらに、平成24年度に近隣の3校合同で学校運営協議会を立ち上げ、支援会と連携・協働することにより、小中連携、地域との関わりを一層深めています。





2020年4月発行

学校運営協議会や地域学校協働本部について、もっと詳しく知りたい場合

横浜市 学校・地域連携推進

検索



【問合せ先】

横浜市教育委員会事務局 学校支援・地域連携課

TEL : 045-671-3278 FAX:045-681-1414